

# 国土交通省の今後の交通安全施策等

平成22年6月29日(火)

国 土 交 通 省

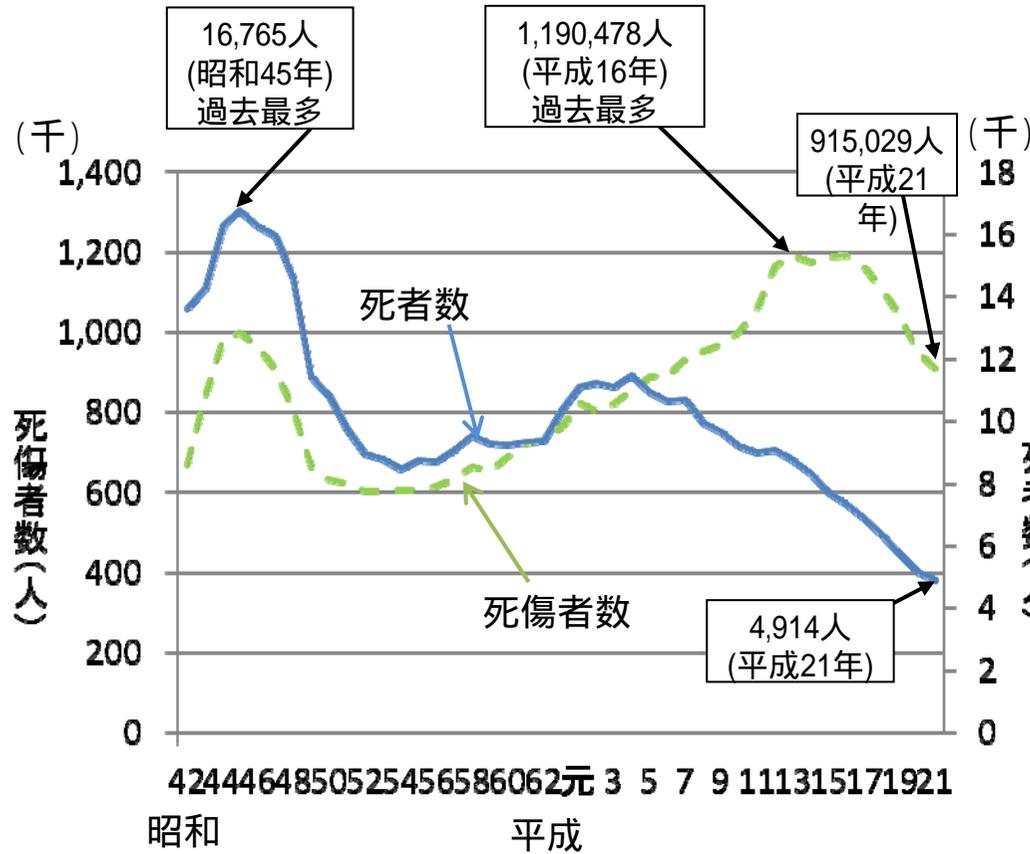
# 1. 道 路 局

# 第9次交通安全基本計画における主な施策（道路交通環境の整備）

| 基本戦略   | メインターゲット  | 事業手法・施策ツール   |
|--|---|--|
| <p>施策パフォーマンスの追求<br/>           ・効率性<br/>           ・科学性<br/>           ・戦略性<br/>           } の向上</p> <p>地域や住民の主体性の重視<br/>           ・計画参画・実践の促進<br/>           ・一定の責任設定<br/>           (協力・実践)</p> | <p><b>A 幹線道路対策</b></p> <p>施策パフォーマンスの高度化<br/>           ・死傷事故率・地域の実感等による対象区間の明確化<br/>           ・蓄積した効果データを踏まえた効果の高い対策の立案<br/>           ・評価の実施と次の対策への反映<br/>           沿道住民の意見の把握・協力要請</p> <p><b>B 生活道路対策</b></p> <p>地域住民の主体的な計画参加・実践を基本<br/>           ・あんしん歩行エリアの設定<br/>           ・物理的抑制対策、通行規制、速度規制 等<br/>           ・自動車/自転車/歩行者/公共交通 等のモードの組み合わせ<br/>           効果分析等の蓄積と反映</p> | <p>交通安全施設等整備事業（ハード対策）等</p> <p>交通規制・交通需要マネジメント（ソフト対策）</p> <p>ITの活用（ハード・ソフト対策）</p> |

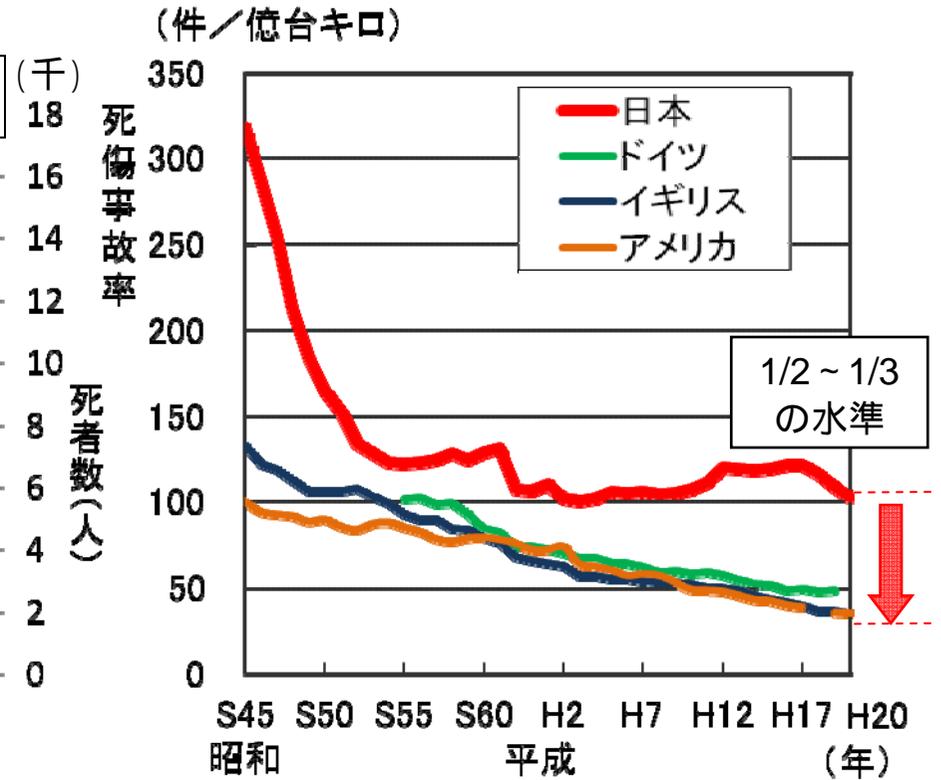
# 交通事故の現状

【交通事故の推移】



昭和46年以前は、沖縄県を含まない。  
出展) 警察庁資料

【死傷事故率の推移 (国際比較)】



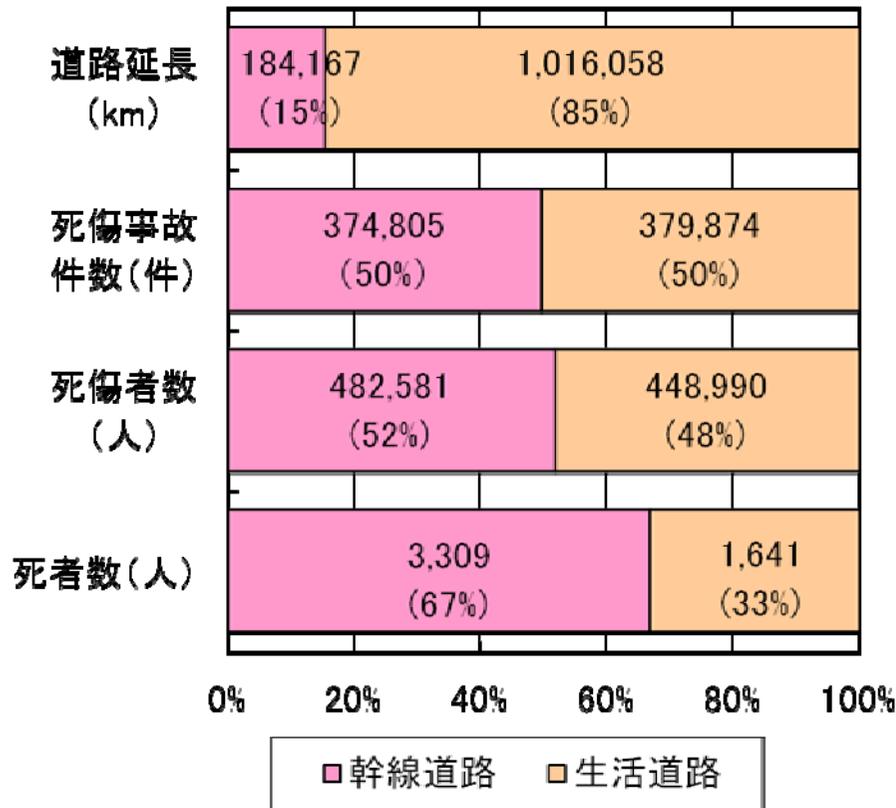
死傷事故率：車が1億km走る間に起こる死傷事故件数。  
出展) IRTAD資料

# 交通事故の現状

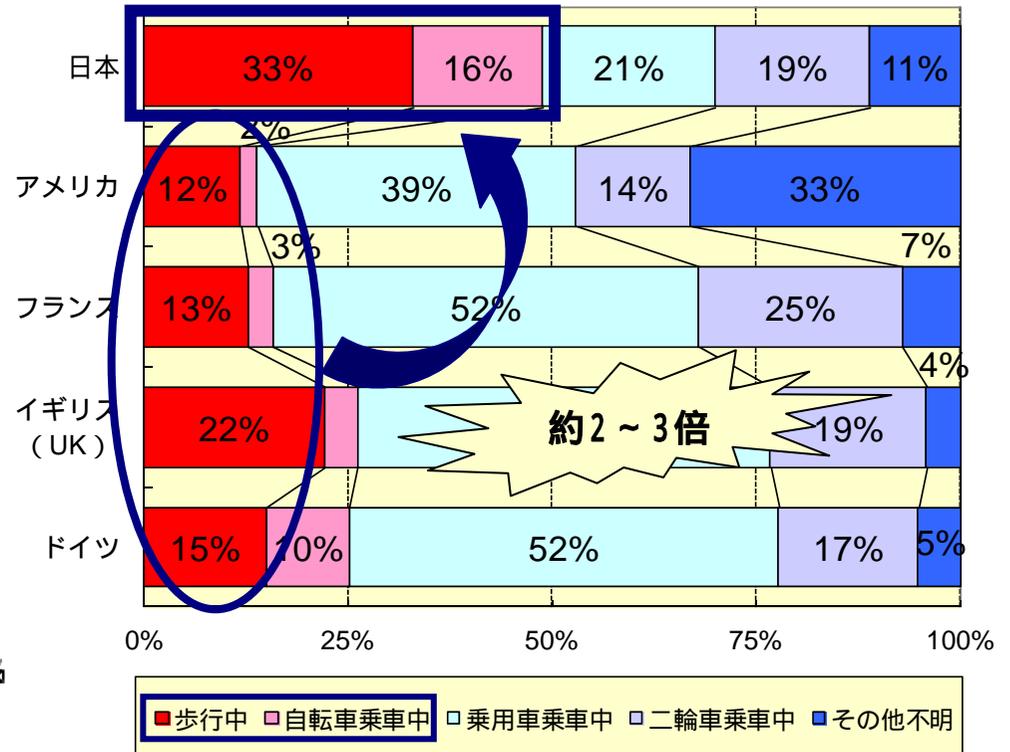
幹線道路と生活道路の死傷事故件数及び死傷者数はほぼ半々であり、死者数は全体の2 / 3が幹線道路。そのため、幹線道路と生活道路での交通事故対策を両輪とした効果的・効率的な対策が必要。

我が国における歩行者・自転車の死者数は欧米と比べ突出しており、歩行者や自転車の安全対策に積極的に取り組んでいく必要。

【幹線道路と生活道路における事故の特徴】



【世界の状態別死者数の比較(平成20年)】



道路延長:平成21年4月1日現在  
事故件数・死傷者数:平成20年

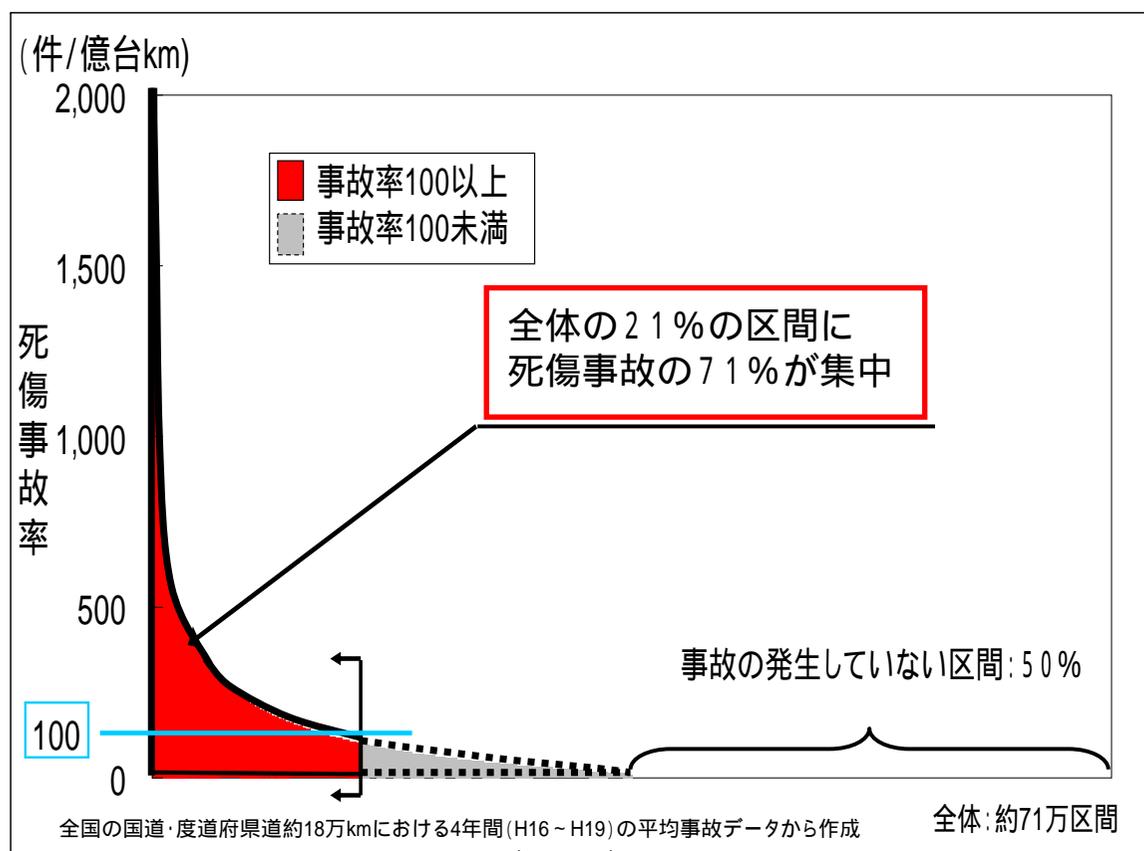
出展) 国土交通省資料・  
警察庁資料を基に作成

出展) IRTAD資料

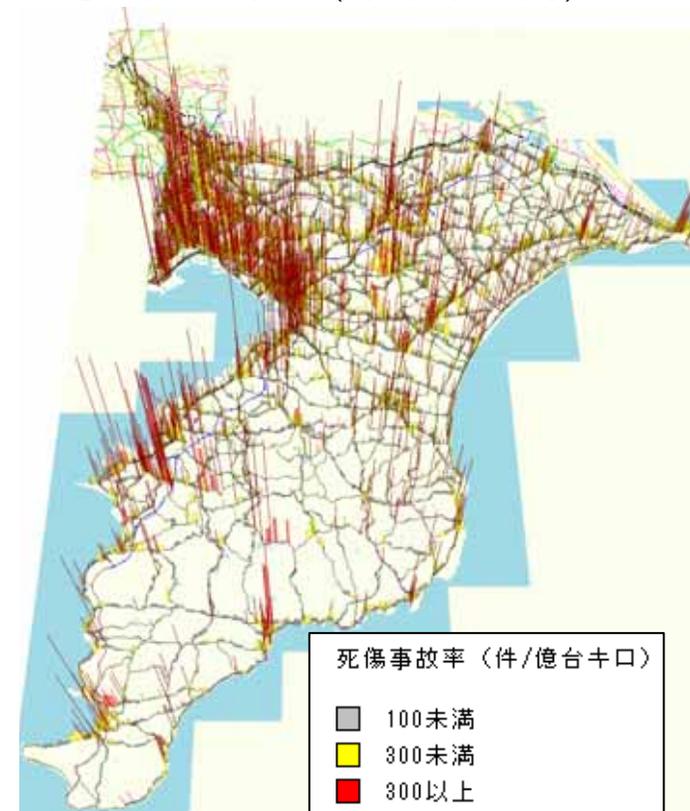
# 成果を上げるマネジメント(幹線道路対策)

全国の国道・都道府県道を約71万区間に分割すると、全体の2割の区間に約7割の死傷事故が集中  
同一の路線でも区間毎に死傷事故率は異なり、データに基づく対策箇所の選定が重要

【全国(国道・都道府県)の死傷事故率】

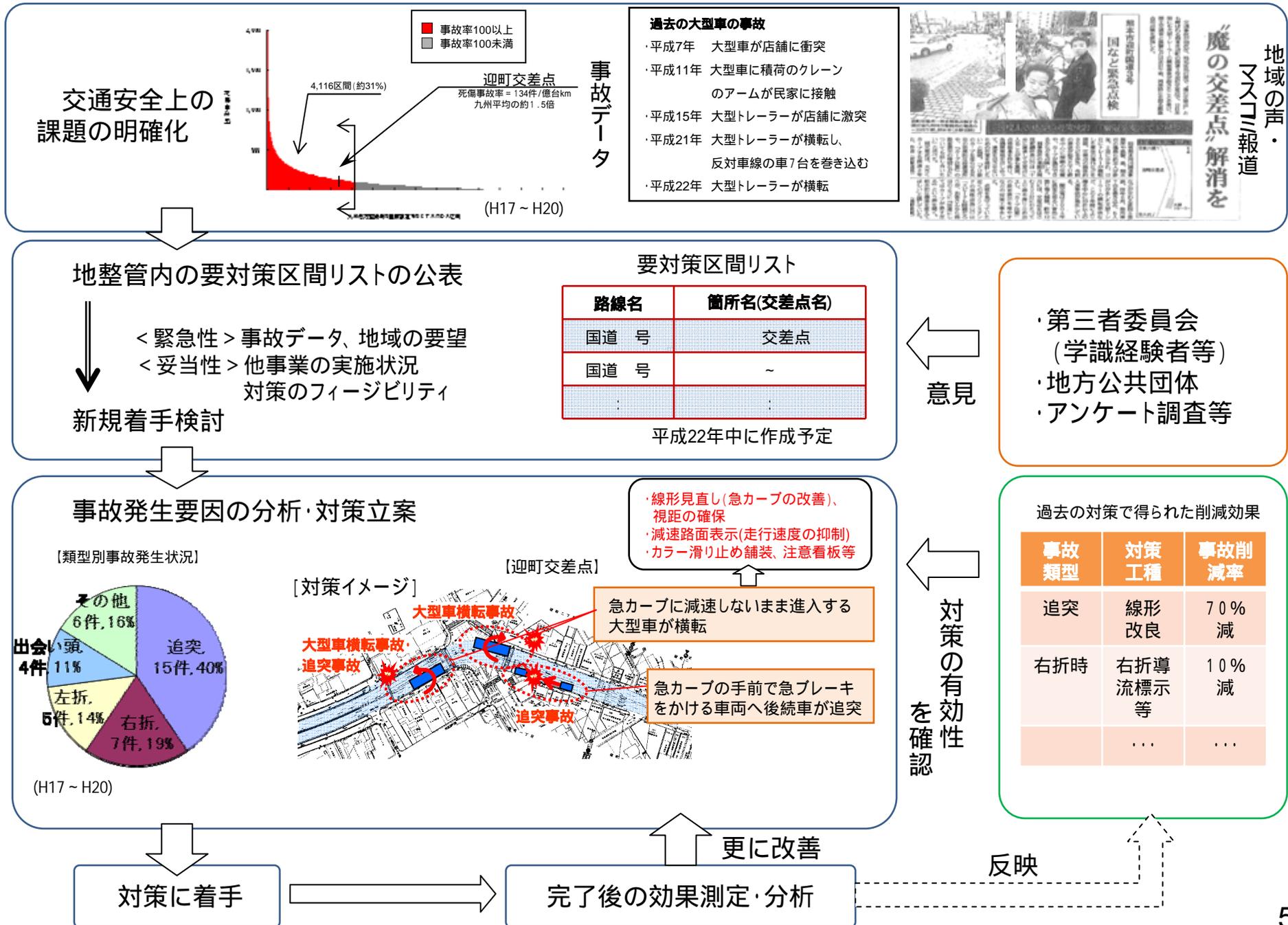


【事故発生状況(千葉県)の例】



線の高さは死傷事故率の高さを表示  
地図上の実線は一般国道及び都道府県道を示す

# 成果を上げるマネジメント(幹線道路対策)



# 安全・安心な生活空間の確保への取組

これまで

歩行者・自転車の事故件数が多いエリアを「あんしん歩行エリア」として指定(H15:796ヶ所,H20:582ヶ所)し、人優先の観点から通過交通や車両速度の抑制等の対策を実施しているところ。

今後

鎌ヶ谷市を例とする効果的な取組を他の箇所を展開することを目指す。



そのため、

地域住民・学識経験者・行政が連携し、効率的・効果的な対策が実施されるように取り組む。



鎌ヶ谷市では、地域住民、学識経験者、行政が連携。ワークショップ等を通じて合意形成を図りつつ対策を実施。

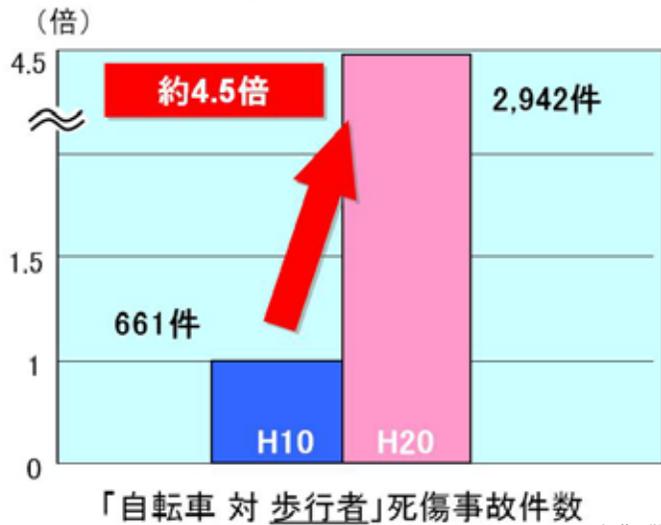
# 自転車走行環境整備による歩行者・自転車の安全確保

自転車対歩行者の事故が10年間で約4.5倍

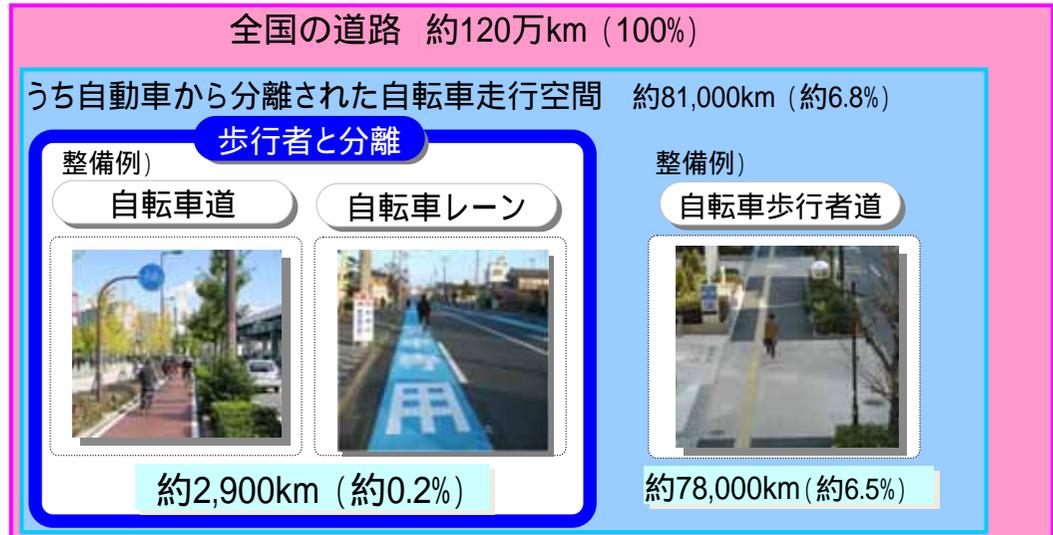
歩行者と分離された自転車走行空間は全国で約2,900km(平成21年4月時点)

平成20年に全国98箇所のモデル地区を指定し、歩行者・自転車・自動車が分離された走行空間を整備  
今後とも、歩行者、自転車の交通事故削減に向け、自転車利用環境の整備を推進

## 事故件数の推移



## 自転車走行空間の整備状況



延長は道路延長、平成21年4月1日現在 [出典:国土交通省資料、警察庁資料]

## 自転車通行環境整備モデル地区

- ・全国98地区指定 (警察庁と共同、平成20年1月)
- ・概ね2年間で整備
- ・自転車道、自転車レーン等の整備



東京都三鷹市(自転車道)



兵庫県尼崎市(自転車レーン)



徳島県徳島市  
(自転車歩行者道上の  
自転車通行部分の指定)